

Messages from graduates



卒業生の メッセージ

「私らしさ」を見つけて 活躍する先輩たち

本校での学びを経て夢や目標を見つけた卒業生。

今年度の学校案内では、
ソプラノ歌手として各方面で活躍中の
根本真澄さんにご登場いただききました。

平成23年度音楽科卒業
ねもと ますみ
ソプラノ歌手 根本 真澄さん

—根本さんこんにちは。お久しぶりです。お元気でしたか？

—無沙汰しています。お陰様で元気に過ごせていますw

—Twitterなどを拝見してもご活躍の様子がわかります。今はどのようなことに取り組んでいらっしゃいますか？

—ホールや学校での演奏や収録のお仕事をしながら、個人的に生徒さんの指導をしています。ファイナルファンタジーなどの大作ゲームやアニメのBGMバックコーラスなどにも参加しています。演奏においては、現代音楽や歌曲、宗教曲のソリストとして演奏を依頼されていますが、

—もっと幅広く学びたいと考え、現在は昭和音楽大学大学院でオペラを中心に研究しています。

—それはすごい。まさに高校時代に思い描いた夢の中にいる、といった感じでしょうか。

—はい。音楽漬けです。大変ですが、とても充実しています。

—根本さんは高校時代も音楽漬けでしたが、なぜ本校を志望されたのですか？

—福島県で唯一音楽科のある高校であること、特待生制度

があることで志望しました。将来はヴァイオリンの先生か、何か音楽の仕事をしたいなど漠然と考えていました。そのための知識や技術が必要だと思って受験を決めました。

—おお、よく考えていますね。入学してみてどうだったでしょうか。高校時代の思い出を教えてください。

—面白すぎ性格だったので、試験では絶対満点を取るぞとずっと思っていたのですが、数学でどうしても満点を取りこっそり泣いてしまった思い出があります。他にも、ピアノの試験で音を間違えたことで泣いてしまったり、落ち込んだりなど……。浮き沈みが激しかったですw

—あ～……よく覚えていますw

—その節はご迷惑をおかけしました！でもこの経験があったからこそ、今、生徒さんへの接し方や向き合い方、声のかけ方など、いろいろと考えながらできていると思います。

—高校時代に得たもので、現在も役立っているものは何ですか？

—音楽に関する知識と指導の仕方、先生方との繋がりです。音楽家は人との繋がりが特に大切です。卒業後も地元での演奏の機会をくださったり、素晴らしい先生のマスタークラスを紹介してくださったり、普通の学校では得られない経験や繋がりを頂きました。

—附属高校の先生方の印象はどのようなものでしたか？

—どの先生もとても丁寧に教えてくださいましたが、一番は、精神的なサポートをたくさんしていただいたと思っています。さまざまな視点で伝え、生徒の視野を広げる。そういう指導をして頂いたんだなと、今教える立場になってしみじみ実感しています。

—そう言ってもらえると、とても嬉しいです。
根本さんにとって、「音楽」とはどのような存在ですか？

—うーん……。例えると、離れられない恋人のようなものですw 思い悩んだり辛くなったりする原因是音楽ですが、そこに寄り添って癒してくれるのも音楽という……。辛さも喜びも全部音楽からもらっています。

—中学生のみなさんに向けてメッセージをお願いします。

—音楽は早いうちに身につけておいた方がいい知識や技術

があるので、音楽家を目指したいと思ったら、高校から音楽科を選ぶことは素晴らしい選択です。高校卒業後に違う世界を選ぶとしても、しっかりとサポートしていただけるし、何も問題はありません。私もまだ迷うことが沢山あります。ですが、どんなに大変なことがあっても自分の「好き」を追及する人生は、なかなか悪くありませんよ！

—これからも応援しています。体に気をつけて頑張ってください。

—ありがとうございました。先生方もお元気で！



Profile

根本真澄／ソプラノ

福島県出身。郡山女子大学附属高等学校音楽科ヴァイオリン専攻卒業。東京藝術大学音楽学部声楽科を経て、同大学別科卒業。大学卒業時に同声会賞受賞。市川市文化振興財団第2回即興オーディション最優秀賞受賞。NPO法人芸術・文化若い芽を育てる会助成金審査会奨励賞及び音楽賞受賞(第1位)。かながわ音楽コンクール声楽部門プロフェッショナルの部第1位。声楽を高橋啓三、平松英子、高橋達也、アンナ＝マリア・パーマー、井ノ上了吏各氏に師事。ヴァイオリンを増子仁保、坂井玲子各氏に師事。即興演奏を平野公崇氏に師事。啓声会会員。日本声楽家協会研究員。NPO法人芸術・文化若い芽を育てる会助成金受領者。昭和音楽大学大学院音楽研究科修士課程音楽芸術表現専攻オペラ所属。